

10) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

目的：多くの市民が暮らしたいと思う文化や教育環境がある

指標：文化・教育に魅力を感じて、いつまでも住み続けたいと思う人の割合

目的

このまちにいつまでも住み続けたい、住んでいて良かったと市民が感じ、喜びや生きがいとともに、ふるさととして愛着が感じられるまちにするためには、教育と文化も大きな役割を担っています。

指標

松戸市の文化・教育環境の整備方針や施策の評価は、本市の定住志向に関する市民意識調査において、文化・教育の環境整備を理由に住み続けたいという市民の割合としてとらえることが的確です。今後、この評価を高めて行くことを目指します。

設問

この指標は、「文化・教育環境の4項目の満足度」と「定住意向」を組み合わせ導きだしている。
「社会・態度(評価)」

「子どもの教育環境」「文化・芸術の鑑賞や活動環境」「スポーツや健康づくりのための環境」「史跡や神社など歴史・伝統文化遺産」の4項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれの程度満足していますか。(1つに)

- 1 十分満足している 2 まあまあ満足している 3 普通である 4 やや不満である
5 きわめて不満である 6 わからない

「定住意向」はp34を参照

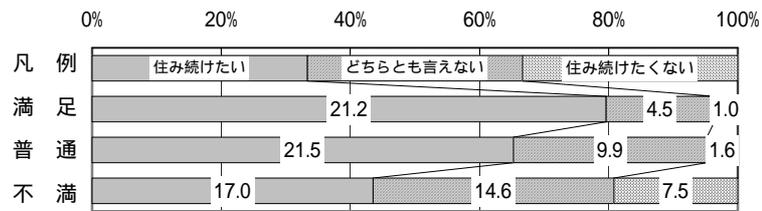
指標の現状(値)

定住意向 文化・教育環境	H13年度	H16年度			H19年度 (目標値)
		住み続けたい	できることなら 住み続けたい	計	
十分満足している	0.7%	1.0%	0.1%	1.1%	
まあまあ満足している	20.6%	11.4%	8.7%	20.1%	
計	21.3%	12.4%	8.8%	21.2%	25.0%

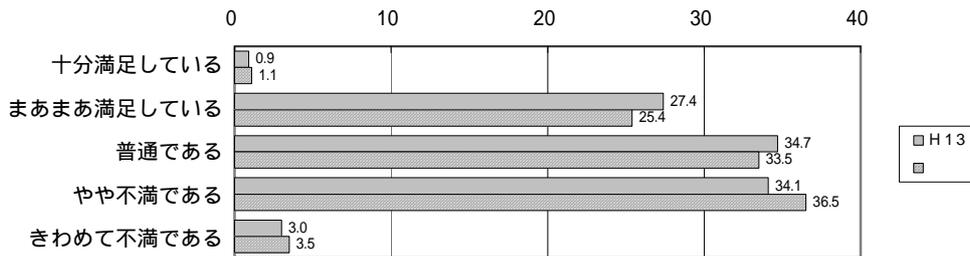
指標の分析

文化・教育環境の満足度が、定住意向と関連している

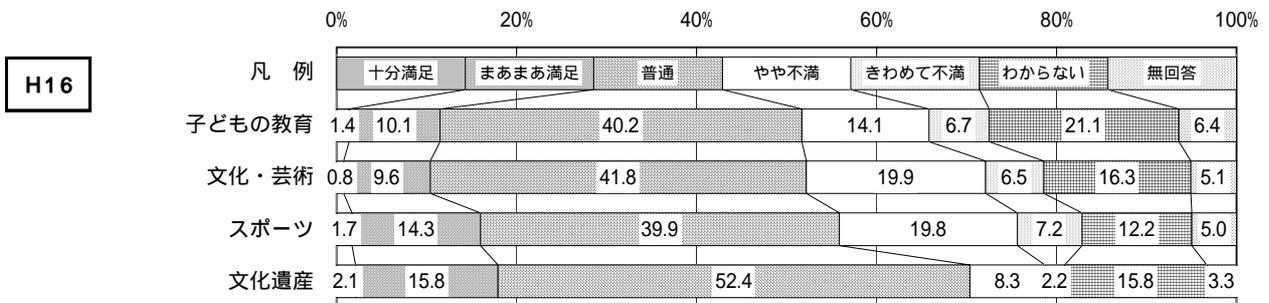
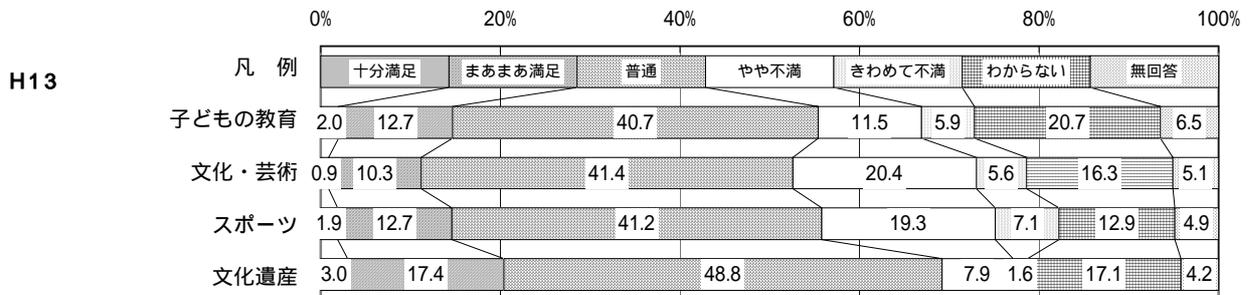
文化・教育環境に関する満足度を3つに分類すると、満足度の高い人ほど、定住意向も高くなる傾向が見られ、文化・教育環境が定住意思と関連している様子がうかがえる。



文化・教育環境の満足度は、「やや不満である」人が最も多く、次いで「普通」「まあまあ満足している」の順となっており、全体ではやや不満の傾向があらわれる結果となった。前回との比較では、「やや不満」が増え、「普通」「まあまあ満足」が減少しており、不満の傾向がやや高まる傾向となっている。



さらに、教育・文化環境の個別要素ごとに見ると、満足度が比較的高いものとして「文化遺産」「スポーツ」、不満度が比較的高いものとして「文化・芸術」「子どもの教育」がそれぞれあがっている。いずれにおいても「普通」が最も多いものの、個別要素ごとの違いが見られる結果となった。



11) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第1項 生涯学習の推進

目的：より多くの人々が積極的に学習活動を行い、その成果を活かすようになる

指標：学習活動を行っている人の割合

目的

学習は、その体験を成果として何らかの形で活かすことにより、学んだ事柄が自分の中に定着し、さらに次の学習に進んでいくという構造を持っています。このことは、学習者の主体的な学習と、地域の中での多様な学習活動による学び合う関係を育んでいきます。また、本市の生涯学習に関する市民意識調査においては、学習活動と地域活動との間に相関関係が認められました。

これらのことは、学習活動が地域社会での活動へと発展し、地域づくりの重要な要素となることを示唆しています。

指標

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動に取り組む市民が多くなることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間を振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。(1つに)

- 1 ほぼ毎日 2 週に数日ほど 3 月に数日ほど
4 年に数日ほど 5 全くない

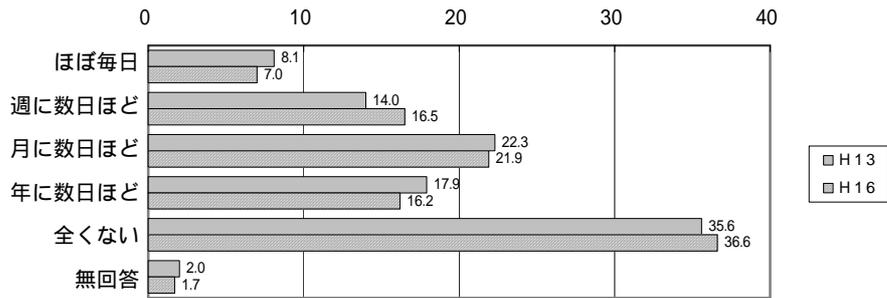
指標の現状

カテゴリー	H13年度	H16年度	H19年度(目標値)
ほぼ毎日	8.1%	7.0%	
週に数日ほど	14.0%	16.5%	
月に数日ほど	22.3%	21.9%	
計	44.4%	45.4%	50.0%

指標の分析

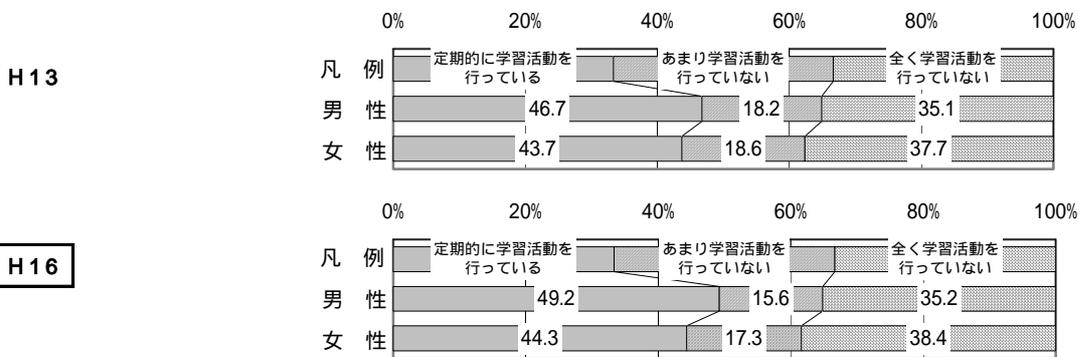
学習活動に取り組む人は、わずかに増加

過去一年間に学習活動に取り組んでいる人は、平成19年度目標にはまだ開きがあるものの、わずかに増加する傾向にある。学習のペースを見ると、「週に数日ほど」が増加、「ほぼ毎日」「月に数日ほど」がやや減少しており、週間のペースで学習活動をする傾向がやや強まっている。一方、「年に数日ほど」は減少したものの、「全くない」はやや増加するなどの特徴も見られる。



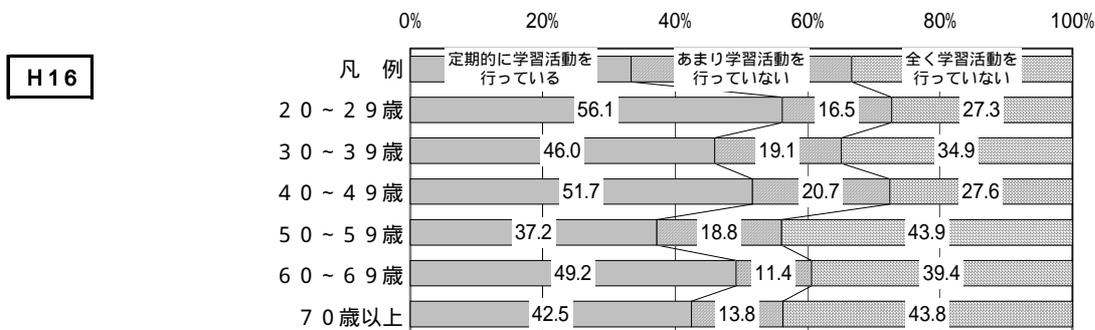
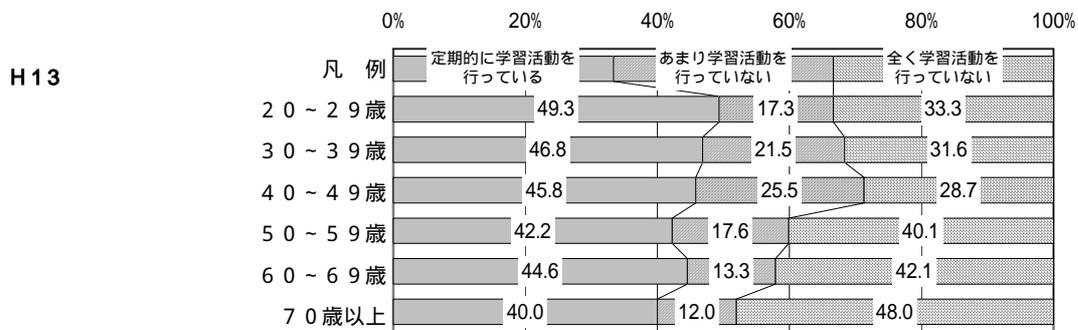
次に、性別で見ると、定期的に学習活動を行っている人は女性に比べ男性に多く、前回と同様の傾向となっている。なお、全く学習を行っていない人は女性の方が多い。

【学習活動×性別】



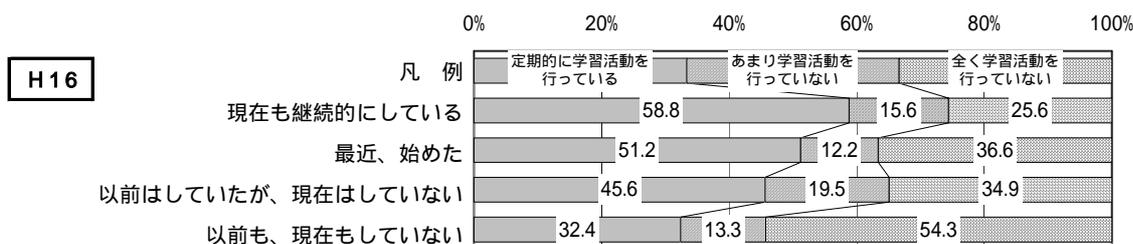
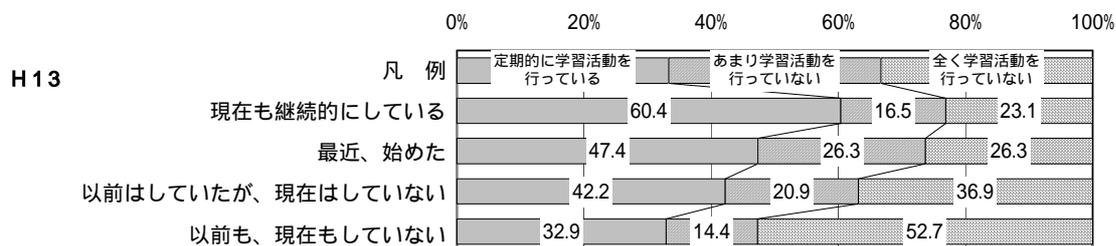
また、年齢別に見ると、定期的に学習活動を行っている人の割合が高いのは、20歳代、40歳代、60歳代となっている。年齢層に応じた傾向とは必ずしもなっておらず、働き盛りや子育ての中心的な世代となる30歳代、定年を控えた段階の世代で学習活動が低くなる傾向になっていることが特徴的である。

【学習活動×年齢】

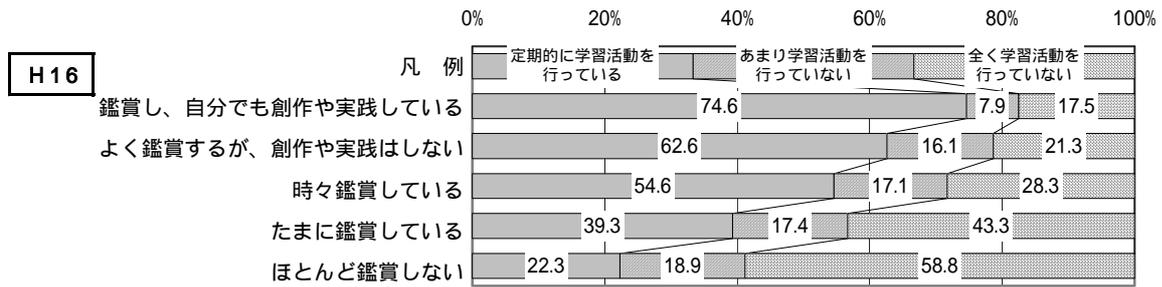
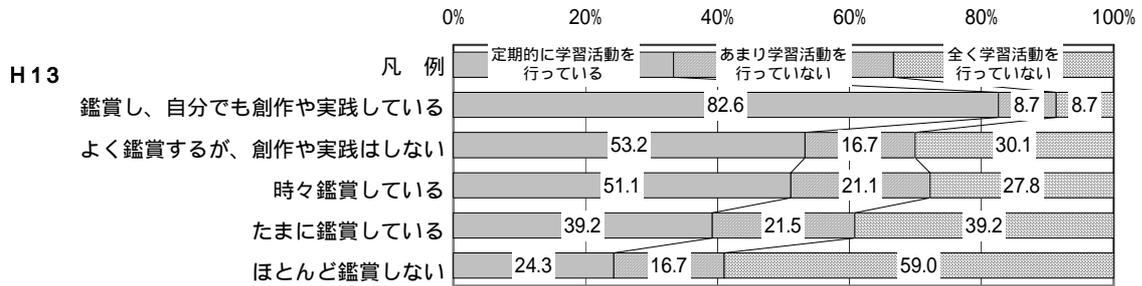


スポーツや文化・芸術活動との関係を見ると、活動している人の方が学習活動も定期的に行っている割合が高い傾向にある。

【学習活動×スポーツの実施状況】



【学習活動×芸術文化の実施状況】



12) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第1項 生涯学習の推進

目的：より多くの人々が積極的に学習活動を行い、その成果を活かすようになる
 指標：学習活動の成果を地域社会で活かしている人の割合

目的

学習は、その体験を成果として何らかの形で活かすことにより、学んだ事柄が自分の中に定着し、さらに次の学習に進んでいくという構造を持っています。このことは、学習者の主体的な学習と、地域の中での多様な学習活動による学び合う関係を育てていきます。また、本市の生涯学習に関する市民意識調査においては、学習活動と地域活動との間に相関関係が認められました。

これらのことは、学習活動が地域社会での活動へと発展し、地域づくりの重要な要素となることを示唆しています。

指標

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、取り組んだ学習活動を活かす市民が多くなることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。（全てに）

1 仕事、職業に活かされている	2 自分自身の向上に活かされている
3 家庭や家族に活かされている	4 地域活動や社会活動に活かされている
5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている	
6 その他（ ）	
7 活かされていない	

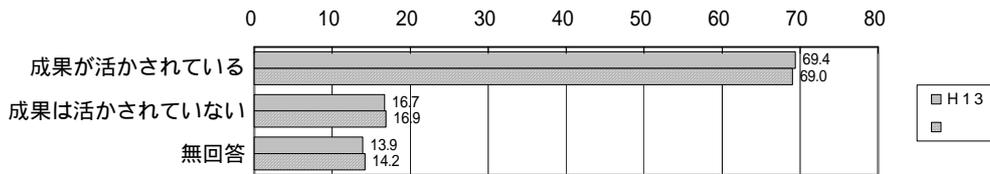
指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H19年度(目標値)
活かしている	69.4%	69.0%	75.0%

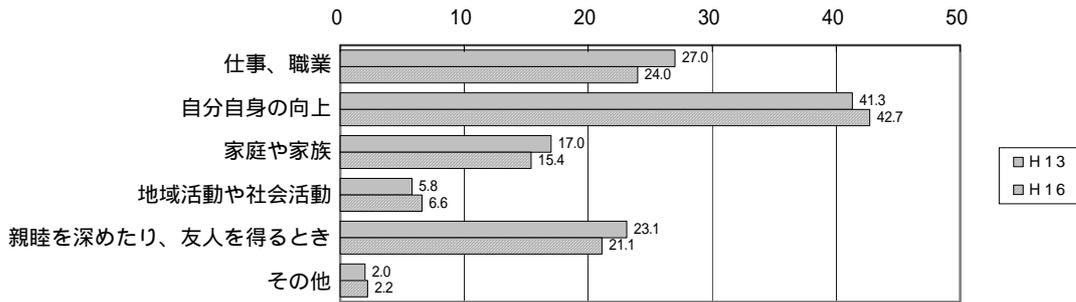
指標の分析

学習活動の成果を活かす人の割合はほぼ横ばいで推移、活かすことを目的としない学習の存在も

これまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果を、何らかの形・方面で活かしていると考えた人の割合は、前回に比べわずかに減少し、平成19年度目標には近づいていない状況にある。平成13年度当初から、比較的高い割合で活かしている人がいたことも影響していると考えられ、一方では、趣味・嗜好などによっては、学習の成果を必ずしも活かそうとは考えていない、他で活かすために学習をしているのではない層も一定程度存在するとも見ることができる。

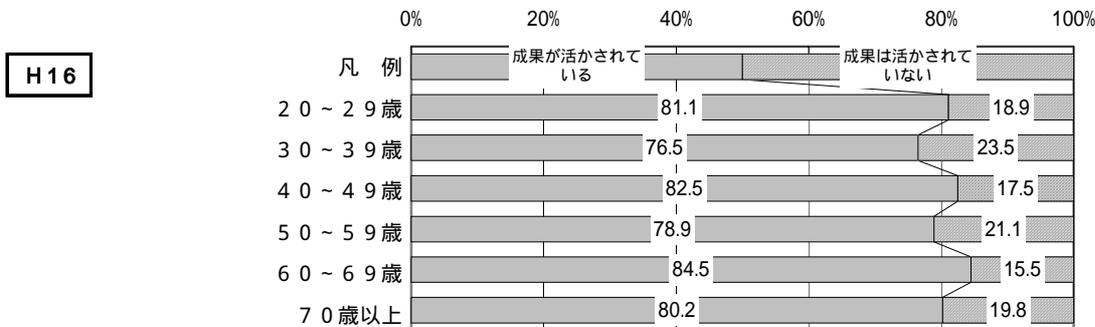
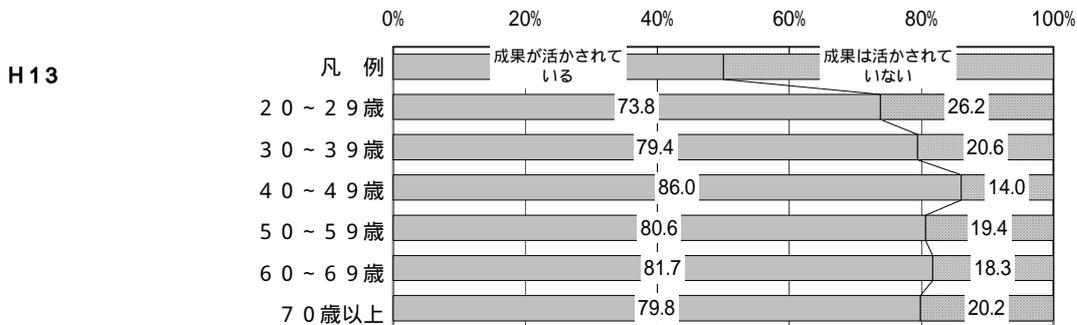


特に、活かしているものとしては、前回と同様、「自分自身の向上」が最も多くあがっており、続く「仕事、職業」「親睦を深めたり、友人を得るとき」はいずれも前回に比べ減少している。



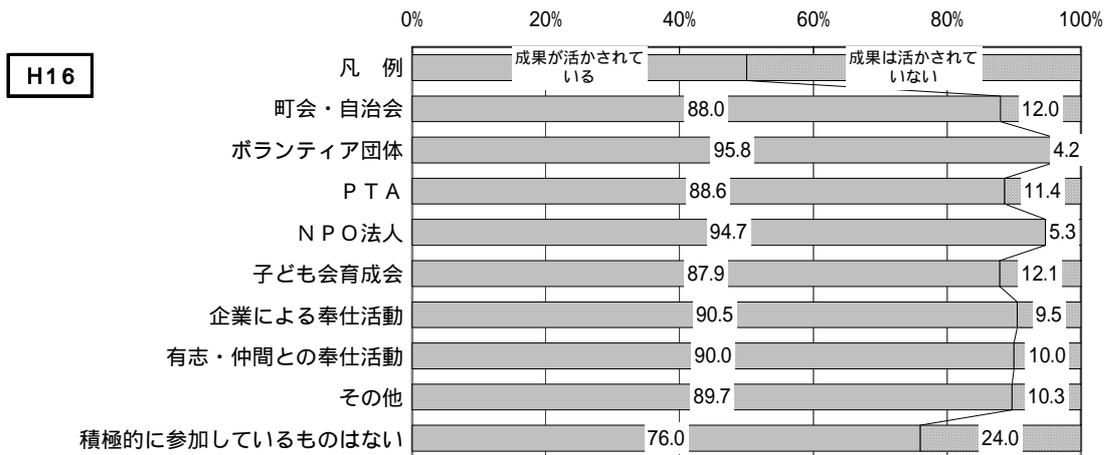
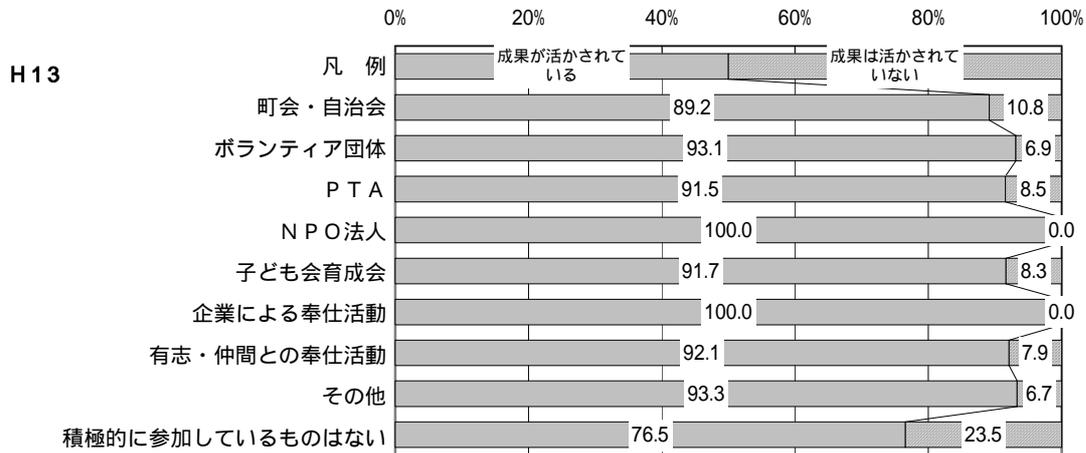
次に、年齢別に見ると、年齢推移に応じた傾向とは言えず、いずれの年代でも活かされていると考える人が多いものの、その割合は年代によって違いがでる結果となった。

【学習活動の成果×年齢】



また、地域活動への参加との関係を見ると、何らかの地域活動に参加している人の方が、学習成果が活かされていると感じる割合がより高まる傾向にある。またその傾向は、ボランティア団体、NPO法人に参加している人により顕著にあらわれている。

【学習活動の成果×地域活動への参加】



13) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第3項 生涯にわたるスポーツ活動の支援

目的：より多くの人々がスポーツに親しむようになる

指標：スポーツを行っている人の割合

目的

人生をより豊かにし、身体・精神の両面に良好な作用をするスポーツは、ストレスの多い現代社会において、心身の健全な発達や活かに満ちた社会を形成していく上で必要です。市民それぞれのライフステージに合ったスポーツを親しむことが重要であると考えます。

指標

スポーツを行っている市民の割合を測ることでスポーツの振興度合を把握し、スポーツに親しむ市民の増加を目指します。

設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。(1つに)

- 1 現在も継続的にしている
- 2 最近、始めた
- 3 以前はしていたが、現在はしていない
- 4 以前も、現在もしていない

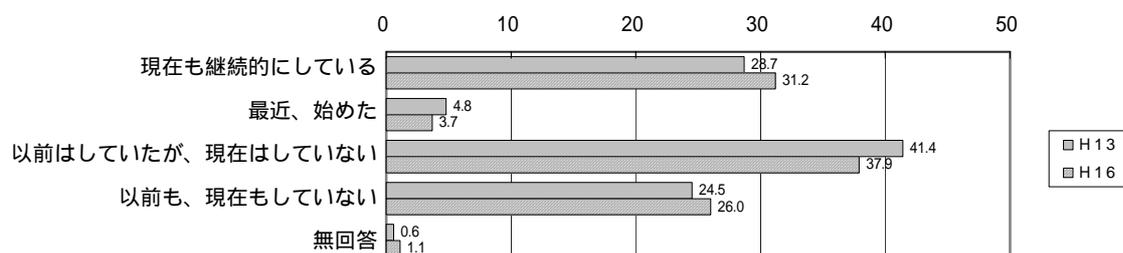
指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H19年度(目標値)
現在も継続的にしている	28.7%	31.2%	
最近、始めた	4.8%	3.7%	
計	33.4%	34.9%	50.0%

指標の分析

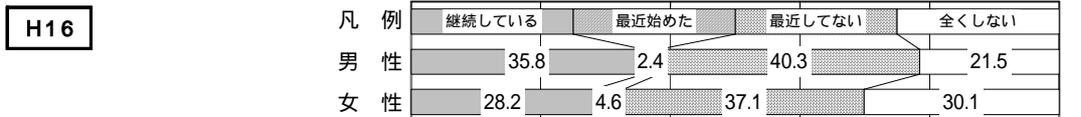
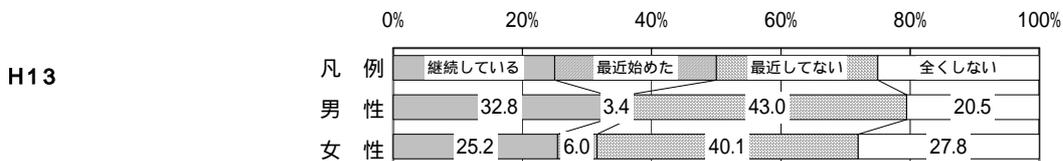
日頃スポーツをしている人の割合はわずかに増加

日ごろ、運動・スポーツをしている人は、前回に比べわずかに増加したものの、平成19年度目標とはまだ開きがある状況となっている。内訳を見ると、「現在も継続的にしている」人が増えた一方、「最近、始めた」人はやや減少しており、新たに始める人の減少は、今後の目標達成にあたっての懸念要因とも捉えられる。



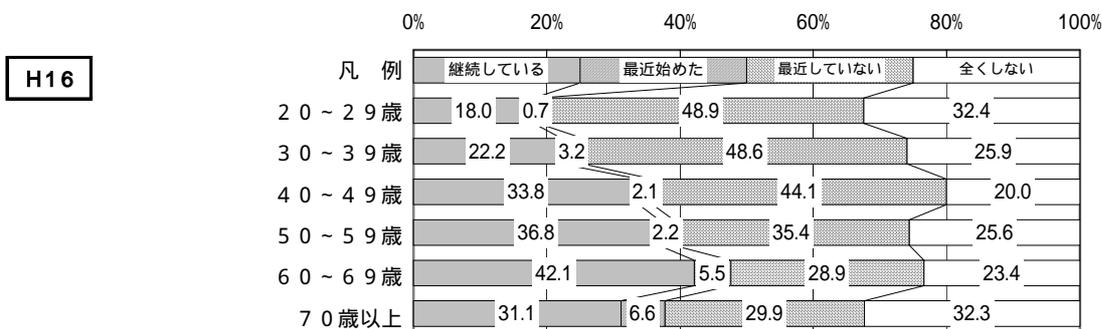
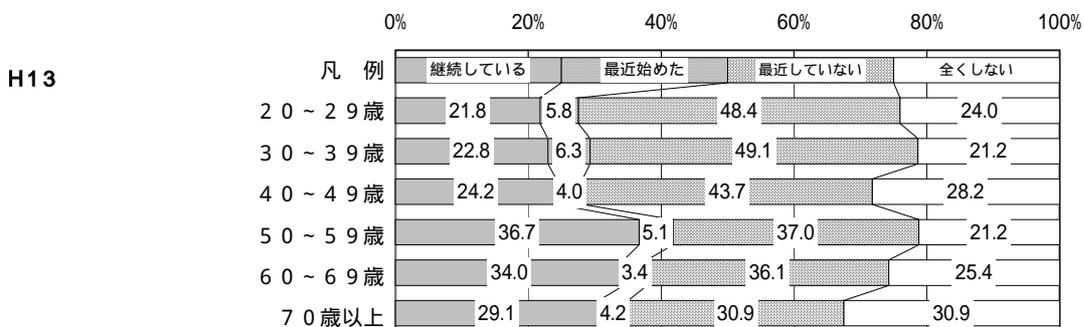
次に、性別で見ると、前回と同様、男性の方が継続している人が多く、全くしない人は女性に多い。

【スポーツ活動×性別】



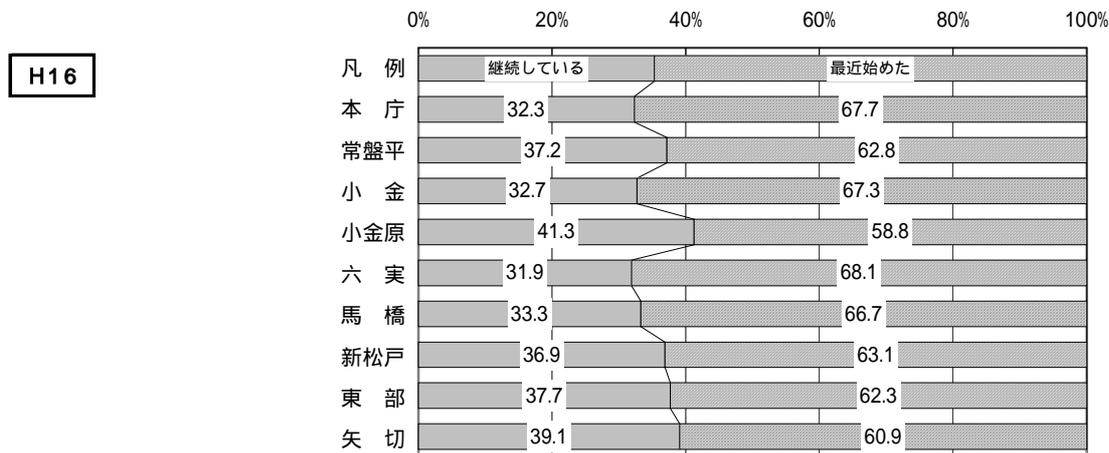
また、年齢別に見ると、おおむね年齢層が上がるにつれ、継続している人の割合も高まる傾向にある。最近はじめた人についても、高齢者層で比較的多く、健康づくり等、スポーツ通じた自主的な取り組みは高齢者ほど意欲的であるとも見ることができる。

【スポーツ活動×年齢】



地区別でみると、「継続している」が多いのは、小金原、常磐平、新松戸、矢切地区があり、「最近していない」が多い地区は、六実、常磐平、東部地区、また、「全くしない」が比較的多い地区として、馬橋、小金、本庁地区などが挙げられる。

【スポーツ活動×地区】



さらに、スポーツ環境に対する満足度との関係を見ると、満足している人の方が、スポーツをする傾向が強いことがわかる。反対に、スポーツ環境に対し不満と感じる人は、スポーツをしていない場合が多い。

【スポーツ活動×満足度（スポーツ環境）】

